

Title	小特集：移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展：「温州モデル」を中心に
Sub Title	序 Preface
Author	渡辺, 幸男(Watanabe, Yukio)
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2004
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.96, No.4 (2004. 1) ,p.463(1)- 466(4)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	小特集：移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展：「温州モデル」を中心に
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20040101-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20040101-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 小特集：移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展

——「温州モデル」を中心に——

### コンファレンス開催の背景・開催意義・成果

本特集は、2003年度慶應義塾経済学会コンファレンス「移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展——「温州モデル」を中心に——」での報告をもとに執筆された諸論稿を中心に、同コンファレンスに参加したその他の方々の上記テーマにかかわる諸論稿を加える形で、構成されている。中国の経済・産業発展の一方の代表的存在である「温州モデル」の中国浙江省温州市を研究フィールドの1つとしている、日本の中国経済研究者と中小企業研究者のほとんどの参加をえたコンファレンスの成果をまとめたものといえる。

まずは、このような内容のコンファレンスを、慶應義塾経済学会のコンファレンスとして開催するに至った経緯を、簡単に述べたい。筆者の温州との出会いは、中国清華大学と慶應義塾大学が中心となり1999年度に発足した3E研究院のプロジェクトの1つとして、中国中小企業発展政策研究が取り上げられたことに始まる。中国中小企業の発展可能性と政策的課題の解明、課題解決への提案を目指し、日本側委員として日本の中小企業・中小企業政策研究者と日本の中国経済実態の研究者が集められ、チームを組むことになった。その過程で、慶應義塾大学に所属する中小企業研究者の中で最年長者ということもあり、筆者が中国中小企業発展政策研究グループの日本側主査を務めることとなった。

このプロジェクトの一環として、2000年夏から清華大学の中国側グループと共同で、本格的な中国中小企業の現地調査に乗り出すこととなった。最初に訪問し、現地企業からの聴取り調査を行ったのが、浙江省紹興市と温州市であった。各1週間の現地調査であったが、その中で、われわれ中小企業研究者は、温州産業発展に対し、その多様な形態での自立的な発展ゆえに、特に注目することとなった。そこから温州市経済産業発展の定点観測が開始された。2000年夏から2003年夏にかけ、3E中国中小企業発展政策研究日本側グループとしてだけでも、温州での調査のみで、計5回、延べ約5週間をかけ、現地の政府、企業、金融機関、関連団体等、総計60件余の聴取りを行った。

その結果として得られたものは、温州の経済制度、産業発展の独自の発展・展開であり、自立的なかつ持続的な発展を、中国の中では、ある意味で特異な地域の特異な発展として実現している姿の把握であった。しかし、温州の発展は特異なものであるが、同時に、中国の産業発展の可能性を

示すものとして、われわれには認識された。このような認識を、従来から温州の経済・産業の発展に注目している日本の中国経済研究者との意見交換の場を設定することで、より深めたいとの欲求が深まった。

このような背景とともに、この日本側グループのメンバーに、筆者のみならず、経済学会のメンバーとして飯田裕康名誉教授と駒形哲哉助教授が加わっていること、かつその他のメンバーにも、経済学会の会員であった故伊東岱吉教授の中小企業研究の流れを汲むものが多く加わっていることもあり、慶應義塾経済学会主宰のコンファレンスとして開催することにした。

以上の開催の経緯の紹介から明らかともいえるが、本コンファレンスの開催の意義を改めて述べれば、中国の産業発展の一方の極（自立・国内完結型・国内市場向け発展として——筆者の表現）を構成し、発展の可能性を提示する温州モデルについて、改めて、温州の現場を見、また温州の産業発展に注目している研究者が、多様な視点から温州の経済・産業発展について意見を交換することにより、相互により理解を深めること。そして、そのような認識の深化を通して、中国経済の発展の一側面、しかし重要な側面である、自立的な発展の可能性とその意義についての認識をさらに深めることにあるといえる。筆者の問題意識からすれば、中国の自立的発展の可能性を、より明確に把握することなく、今後の日本の国内製造業、とくに中小製造業について、その可能性と課題を明らかにできない。そのためにも、温州産業発展についての認識の、より一層の深化は、必要不可欠なことである。それゆえにこそ、このコンファレンスの意義は大変大きいということになる。

近年、中国の経済・産業発展は、現状分析を行うものにとっては、注目せざるを得ないものとなり、多くの中国経済・産業発展研究が、いろいろな次元で、多様な視角から行われている。日本語で出版されている著作だけでも、筆者が目にしてのみで毎月数冊は存在する。その中で、改めて中国経済・産業発展についてコンファレンスを開催し、それを中心にさらに論稿を付け加え、特集として三田学会雑誌に掲載することの意義は、温州の経済・産業発展に的を絞った議論であることに、なによりもある。温州の経済・産業発展は、中国の産業発展の中で、大きな独自性を持つものであることは、特集の諸論稿が明白にしているところである。同時に、温州の経済・産業発展は、中国の経済・産業発展の一方の可能性を示すものであり、温州の経済・産業発展に議論を絞ってこそ、その内容が把握されると、われわれは考える。それゆえ、屋上屋を重ねるやに見える中国の経済・産業発展についての特集であるが、あえて、この時点で温州を中心に中国の経済・産業発展についての特集を組んだ次第である。

報告内容については、序の最後に示したコンファレンスの開催経過と、そこで報告されたものをまとめた本特集そのものを見ていただくのが、最も適切であろうと考えるので、あえてここで中途半端な紹介をすることは省きたい。

最後に、筆者が今回のコンファレンスでの議論を通して、最も大きな成果と考えていることに簡単に触れ、序を締めくくりたい。議論の成果として、筆者が感じたことの第1は、蘇南モデルの形

式的な意味での温州モデル化、このような事実経過の確認を通して、温州モデルの有効性が改めて認識されたことである。さらに、同時に、そこでの蘇南モデルの形式的温州モデル化は、あくまでも形式的類似化であり、内実は改めて検討する必要があるとされたことが、第2の成果といえよう。温州モデルの一般性と特殊性が、改めて検討され、ある程度確認されたといえる。同時に、温州の産業発展を把握するための、従来とは異なる視点からのアプローチがいくつか展開された。従来の研究の多くでは、温州企業の所有制度に注目するものが多く、私的所有制度の当初よりの形成が専ら注目されてきたが、それ以外の発展を理解するための視点として、再生産論的アプローチの試み等が提示され、温州研究の視角が豊富化されたことが、第3の成果といえよう。

渡 辺 幸 男  
(経済学部教授)

慶應義塾経済学会コンファレンス  
移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展  
——「温州モデル」を中心に——

プログラム

2003年7月5日～6日  
於：リゾートピア熱海小会議室

1. 会議時程

7月5日(土)

開会挨拶、趣旨説明、参加者紹介(13:15～13:30) 渡辺幸男

I 体制移行と発展モデル(13:30～15:15) 座長 渡辺幸男

報告① 駒形哲哉「温州モデル研究アプローチの課題」

予定討論 大島一二

報告② 巖善平「温州モデルと蘇南モデル」

予定討論 菊池道樹

II 産業発展と企業家(15:25～17:10) 座長 加藤孝

報告③ 佐藤宏「温州における企業家の形成」

予定討論 丸川知雄

報告④ 渡辺幸男「社会的分業構造と産業発展」

予定討論 加藤弘之

7月6日(日)

Ⅲ 企業経営と資金供給の課題(9:00~10:45) 座長 森田和正

報告⑤ 黒瀬直宏「温州市産業の競争と発展:『情報』による下からの資本主義化」

予定討論 古澤賢治

報告⑥ 陳玉雄「中国の民間金融——温州を中心とする東南沿海部における民間金融の実態と金融深化——」

予定討論 飯田裕康

Ⅳ 総合討論(10:55~13:00, 途中昼食挟む) 座長 渡辺幸男

2. 参加者(50音順, 敬称略)

飯田裕康 慶應義塾大学名誉教授・帝京大学教授

井出亜夫 慶應義塾大学教授

大島一二 東京農業大学助教授

加藤 孝 新潟経営大学名誉教授

加藤弘之 神戸大学大学院教授

菊池道樹 法政大学教授

黒瀬直宏 専修大学教授

巖 善平 桃山学院大学教授

谷 雲 南開大学経済学院副教授・国際学術交流センター所長

駒形哲哉 慶應義塾大学助教授(事務局)

佐藤 宏 一橋大学大学院教授

平 公明 (財)世界経済情報サービス北京事務所所長

陳 玉雄 麗澤大学経済社会総合研究センター特別研究員

古澤賢治 大阪市立大学教授

丸川知雄 東京大学助教授

森田和正 豊橋創造大学教授

渡辺幸男 慶應義塾大学教授(開催責任者)